



Die Eiche ティ・アイ・エイチ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

2007年年次総会開催



平成19年5月19日(土)14:30・於西船フローラ 29名
本年の年次総会は昨年と同様、西船フローラにて開催された。新任の松崎事務局長の司会で綿貫尚理事を議長に選出、平成18年度事業報告、決算報告、平成19年度事業計画案・および予算案は提案どおり承認された。本年のトピックは、当協会とドイツ・デュッセルドルフの独日協会、アム・ニーダーラインとの間で「学生交流」の計画があること。事業の実施は来年度以降であるが、これまでの経緯、事業の大綱について平尾浩三会長、橋口昭八常任理事より説明があり、「学生交流」の実現を前提に、今後先方と具体的な検討に入ることで、総会での承認が得られた。(概要裏面)

引き続き下記の役員人事の変更が承認された。

常任理事・行事総括: 小野浩氏

常任理事・財務担当: 坂本宗秋氏

常任理事・事務局長: 松崎寛記氏

総会後の記念講演は、在日独連邦共和国大使館参事官・文化部長のハラルド・ゲーリック氏にお願いした。終了後、別室で懇親会が行われ、ゲーリック氏夫人のご挨拶、新入会員の紹介などがあり、17時30分閉会。

去年六月に終了した「ドイツ年」では、第一級の行事を含む合計約一七五〇もの事業が行われ、これは他国では例がなく、現代ドイツの持つ文化的な豊かさ、能力が日本の若者にとって魅力的なものであることを実証しました。その成果を二つ紹介すると、まず二〇〇六年四月開催の環境会議で、ドイツからヴァイツゼッカーフロー・マネジメントがそつくり別府の大学で導入されたこと、二つ目は、二〇〇〇年に設立された東大のドイツ・ヨーロッパ研究センターに修士課程が創設され、ドイツ学術交流会(DAAD)により海外機関として初めて初めて穂門賞を授与されたこ

日本、貴千葉県日独協会の総会で講演する機会を頂戴し、大変嬉しく思います。先ず昨年十一月～十二月に大使館で開催された千葉県の展示会では、皆様にご尽力いただきましたが、これは大使館で開催された最初の展示会の一つで、堂本知事のご訪問という格別の榮誉に浴したものでした。他にも茨城、群馬の展示会が開催され、群馬展では中曾根康弘元首相のご臨席を賜りました。これらの展示会は、大使館が「ドイツ年」の経験から考案した新企画の一部で、各都道府県の人々、機関を大使館に「持込み」、各地の人々や機関との対話を促進するものですが、今後は大使館が各都道府県に「出向き」、現地で「ドイツデー」を開催することも考慮中です。そして、これらの活動は若い世代を主な対象としており、日独が経済大国として直面する問題を解決すべく若い世代の関心を呼び起こし、今後の責任の担い手となるのが中心課題であります。

日独関係と日独協会の役割

ドイツ連邦共和国大使館 文化部長 ハロルド・ゲーリック

文化部長 ハロルド・ゲーリック

～今後の主な催物案内～

- * 自衛隊習志野駐屯地(第1空挺団)見学会
日時:平成19年7月21日(土)13:15~14:30
場所:習志野駐屯地(JR津田沼駅北口よりバス20分、自衛隊前下車。13:15正門集合。
見学内容:・空挺館(明治天皇ゆかりの資料館)を見学
・空挺団の概要紹介
・降下塔見学
- 見学会終了後、北習志野で懇親会
懇親会会費:会員2,500円、非会員3,000円
- * 尾田先生の「ドイツ哲学入門」開講
新春講演会で「日本とドイツの哲学交流」と題し、当協会理事・お茶の水女子大名誉教授尾田幸雄氏に講演して頂きましたが、大変好評で引き続いての講演希望が多く寄せられ、秋に実現することとなりましたのでお知らせします。
- * 予告:チター演奏会を9月8日(土)に予定。
詳細次号。

—会費納入のお願い—

2月に「Die Eiche 総集編」を送付しましたが、その中に会費の請求書が同封されていましたので、お確かめ下さい。見当たらない方は、下記にてお願い致します。

記

年会費:個人 3,000円、法人 10,000円
郵便局から振替用紙に下記を記入の上、送金して下さい。

加入者名 : 千葉県日独協会

口座記号番号: 00180=4=30279

独日協会連合会総会報告—金谷 誠一郎

5月18~20日にドイツ南西部、チェコ国境のPassauで開催された独日協会連合会総会に(財)日独協会木村敬三副会長と共に参加して来ました。同連合会には全独で46の独日協会が加盟していて、毎年春に総会を各地協会が持ち回りで開催しているが、今年はドナウ、イル、イン川が合流する観光地Passau。議題としては

第1日目;① 独日協会の将来 ② 青年対策

③ 来年の独日パートナー会議開催について

第2日目:④ 連合会規約となっていた。当協会に関するのは③で、日本とドイツの各地日独協会会員の親睦を深める合同交流会を来年5月1~3日に総会が行なわれるドイツ中部のカールスルーエにて行い、あと各地をバスで観光、夜は訪問先の独日協会歓迎会に参加する予定。現在の所、第一グループが4/19~5/3、第二グループが5/1~5/14という日程で訪独予定。丁度ゴールデン・ウィークの期間になるが、航空運賃は何とか通常料金としてもらい、又日本発の日は同じとしても、帰国日は分ける(例えば5/1発で帰国は5/8または5/14)ことも考慮中。旅費も、日独の旅行会社数社の入札方式で安くするよう計画中。詳細決まり次第、当紙に発表しますのでご期待下さい。

日独学生交流プログラム

- 1) 基本方針は、デュッセルドルフより18~20才の若人を迎える、単なる日本観光でなく日本の歴史、文化、社会の現状を研修してもらう事である。
- 2) プログラムの開始は2008年8月を目標とし、研修期間は10日から2週間、研修地は千葉県内とその周辺とする。
- 3) 研修に係る費用は往復航空運賃を派遣側が負担し、滞在期間中の費用を受入れ側が負担する。(当協会2名受け入れで約10万円)

大使館は日独協会が若者にとつて魅力的な協会であり、若者たちの広範な活動の場となることが殊に重要だと考えており、四月下旬の草津での全国日独協会年次総会の折、五十名の若者の集会で日独協会とその活動を若者たちに魅力的で興味あるものにする為に、貴重な提案をしてもらいました。

又、姉妹都市交流も盛んで、千葉県とデュッセルドルフをはじめその数は五十を越えていることも嬉しいことです。

このような日独両国の極めて良好な関係は、ドイツ連邦政府の二〇〇二年アジア・コンセプトに「日本は、我々が『アジアで長年に亘り、政治、経済、文化において最も密接な関係を維持している国である』と記述されていることでもあります。しかしに両国首脳の往来はわかりますが、実際に両国首脳の往来は活発で、八月下旬にマルケル首相はEUの議長国終了直後に来日し、京都を訪問する予定です。

国際面においては、二〇〇七年前半にドイツがEU議長国となり、また今年一杯G8の議長国となっていますが、来年は日本がG8の議長国を務めます。そしてG8の中心議題の一つ、環境保護でも両国は、世界の指導的な役割を担っているだけでなく、国連の安全保障理事会の改革にも共同で取り組み、国連予算の約三分の一を拠出しているのです。

このように両国政府の密接で信頼に満ちた模範的な協力関係は、各地の日独協会と大使館との協力関係の最良の土台となるものであります。